

～ 学び続ける教師 ～

震災前のある教室での出来事…音楽の時間、誰もいないはずの教室に男子生徒が一人、席に座ってゲームをしていた。

先生：君はどうして授業に行かないの？

Aくん：勉強しなくてもいいんだもん！

先生：そんなことないぞ。授業をちゃんと受けないと高校にいけないぞ。高校ぐらい出ないと、仕事探すとき困るぞ！

Aくん：仕事なんかしなくても生きていけるさ。

そんなやりとりが続く中、「いい学校出て、立派な会社に就職していい生活ができるように頑張ってるんだよ。」という動機付けは、もはや通用しないのかと思ったというのであった。

そして、震災から一年を経て…不自由な生活を強いられていた避難所で、自発的に支援物資を運ぶなど一生懸命お手伝いをしていた子どもたち、「みんなで力を合わせてこのまちを復興させたい。」と語っていた子どもたちの姿を頼もしく感じたものである。復興に向けての原動力は、次代を担う子どもたちである。人や社会に役立つために、今まで以上に体力や道徳心を身につけ、勉強に励んでほしいと思う。それでは、教師は！？

ある書物に、次のような内容があった。

“教師は、教壇に立ったその日から「先生」と呼ばれ、指導の専門家と言われる。しかし、その名にふさわしい専門家になるためには、「教える専門家」は「学びの専門家」となることが求められる。

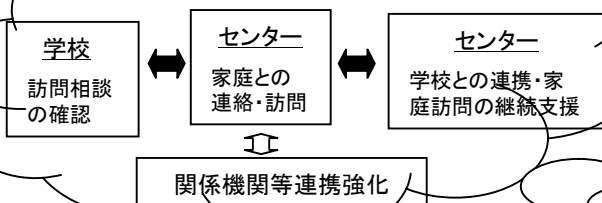
子どもは日々学ぶことで成長し続ける。だからこそ、学びの専門家として、すべての子どもに深い学びを保障し、一人一人を生かすあり方を追求することが重要である。マンネリに陥ることなく、日々自らを新しくする努力こそが、子どもたちの可能性を引き出すことにつながるのである。教師自身があらたな世界に出会い、自らの可能性を発揮し変容していく学びの姿こそが、子どもに生涯学習できる人間のありようを伝えていくことになるのである”

教壇に立つ者として、日々学び続ける教師でありたいと思う。

【参考 現場で役立つ教育の最新事情】



「不登校・ひきこもり傾向にある子ども」の相談の場合

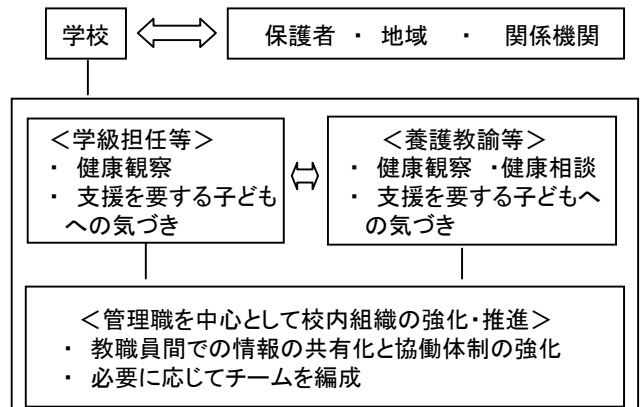


子どもたちの心のケアについて

～震災から2年目の子どもの心のケアの進め方～

震災に伴う子どもの心の傷は、被災が大きければ大きいほど長期化し複雑化する。また、時間の経過とともに表面化してくることもあることから、児童生徒の状況等について継続的に確認し支援する必要がある。2年目のそのポイントとは……

(1) 基本的な対応と自校の実情に応じた対応の再確認
基本的な対応(例)



(2) 個別に継続的に支援を要する児童生徒の情報の共有化と協働体制の維持、推進



子ども健康教育相談について

平成16年4月に開設された市総合教育センターの教育相談が9年目を迎えました。

今年度も電話相談が主な「すこやか教育相談」、そして面接相談や専門的教育相談員(小児科医及び臨床心理士)による助言も可能な「子ども健康教育相談」の両相談で対応していきます。

特に、今年度は不登校児童生徒の状態改善のために、教育相談員による「訪問相談」を開始しました。

また、昨年9月から開始している明星大学心理相談センターと連携した事業を継続し、震災後のケアを含めて児童生徒と保護者の不安解消に努めていく予定です。

今号から本欄に教育相談の現況を載せ、実態をご理解いただきながら各学校の支援に当たっていきますので宜しくお願いします。